

研究主題「相手の思いを考えながら主体的に探究し、

地域の身近な人と関わろうとする児童の育成

ー総合的な学習の時間において、児童が相手の視点をもって

課題の設定や情報の整理・分析を行うための指導の工夫を通してー」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

三鷹市立第四小学校 主任教諭 大島 裕史

第1 研究のねらい

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代となる中、児童が自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる必要がある。中でも、総合的な学習の時間は、実社会・実生活における活用の基盤となる資質・能力の向上を目指して、児童に他者と協働して課題を解決していく力を身に付けることが求められている。

このような状況において、平成30年度文部科学省教育課程部会より、「総合的な学習の時間の取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている。」と報告された。また、平成31年度全国学力・学習状況調査では、「自分の住む地域や社会をよくしたいと思う。」という項目に比べ、「実際に地域や社会をよくするために何かしたことがある。」という項目は、肯定的な回答が低い結果となった。自分の住む地域や社会をよくしたい思いがあるものの、行動へつなげることはできていない児童がいることが分かった。

これらのことから、児童が地域や社会をよくするための行動につなげられるように、相手の思いを考えながら課題を解決していくことが重要であると考えた。そのため、総合的な学習の時間において重視されている探究的な学習を通して、常に相手の視点を持ち、「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案すること」並びに「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価すること」の場面に焦点を当て、本研究を進めていくこととした。

第2 研究仮説

総合的な学習の時間における地域を題材とした学習を通して、相手の視点をもって「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面」と「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面」の指導を工夫すれば、相手の思いを考えながら主体的に探究することができるようになり、地域の身近な人と関わろうとする意欲が高まるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年7月）から、児童が探究的な学習において主体的に学ぶためには、次のことが重要であると分かった。

- (1) 学習の場の設定、学習活動の目的をもてるようにすること、学習の状況についての価値付けや方向付けなども、必要に応じて指導者が行うこと。
- (2) 「課題の設定」では、児童自ら課題を立てること。
- (3) 「整理・分析」の振り返りでは、児童自らの学びを価値付けすること。
- (4) 学習活動の見通しを明らかにし、児童自身が目的意識をもつこと。
- (5) 他者と協働して学習することで、児童が相手意識を生み出すこと。

さらに、文献や先行事例等を調べたところ、児童が相手意識、目的意識をもって学習するこ

「相手の思いを考えながら主体的に探究し、地域の身近な人と関わろうとする児童の育成—総合的な学習の時間において、児童が相手の視点をもって課題の設定や情報の整理・分析を行うための指導の工夫を通して—」

とで、自ら課題を発見し、解決しようとする態度が育まれることが分かった。

2 調査研究

(1) 調査の概要（令和3年7月）

都内公立小学校第3学年児童 84 名を対象に、総合的な学習の時間に関する意識調査を行った。また、都内公立小学校教員 15 名を対象に、児童の総合的な学習の時間に関する学習状況調査、課題に関する意識調査を行った。

(2) 調査結果

本調査において、児童の学習活動に対する意識を調べた結果、「課題を見付けること」について、児童、教員ともに、肯定的な回答の割合が一番低かった。（図1）また、教員からは、「調べた情報や学習活動が発表の中心になってしまう。」「児童が情報を整理・分析まではできず、新たな課題につなげることが難しい。」といった課題が挙げられた。以上のことを踏まえ、総合的な学習の時間において主に「課題の設定」や「整理・分析」の学習過程の指導を工夫する必要があると考えた。

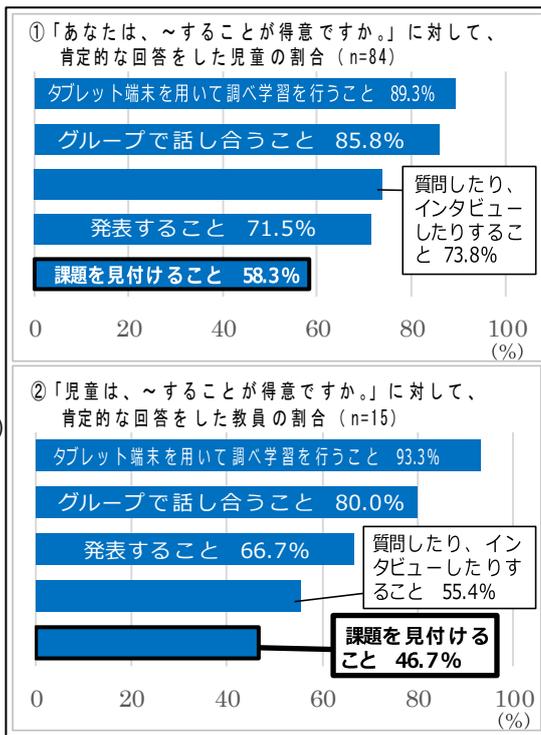


図1 総合的な学習の時間における、児童の学習活動に対する意識調査

3 開発研究

(1) 単元の指導計画のモデル

児童が相手の視点をもって探究的な学習をするために、「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面」においては学習の相手や目的を確認する指導の工夫、「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面」においては、相手の思い等を考えるための問い返しや価値付けの指導の工夫を取り入れた単元の指導計画のモデルを作成した。（図2）

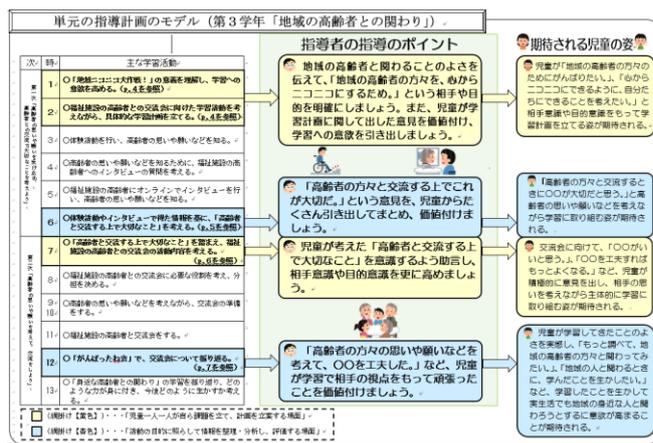


図2 単元の指導計画のモデル

(2) 指導者用チェックリスト

指導者が指導の工夫を自己点検できるように、「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面」と「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面」における指導のポイントをまとめたチェックリストを作成した。（図3）

	確認事項	チェック
児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面	① 単元を学習する意義が児童に伝わるように説明するために、発達段階に応じた言葉で内容を整理していますか。(成果物I【p.4】を参照)	
	② 学習活動において、「児童が自分たちでできること、できないこと」を明確にして、納得できるようにする準備をしていますか。	
	③ 学級の児童がいつでも確認できるように、学習計画の予定を記入したり、随時更新したりできる表と掲示場所を用意していますか。	
	④ 児童が調べたいことや情報を収集するための方法を3個以上(目安)想定していますか。(成果物I【p.4】を参照)	

図3 指導者用チェックリスト（一部抜粋）

4 検証授業

都内公立小学校第3学年児童 28 名を対象に、総合的な学習の時間において、探究課題「福祉」、単元名「地域ニコニコ大作戦！」（令和3年10月21日～12月3日の期間、全13時間）を実施した。

「相手の思いを考えながら主体的に探究し、地域の身近な人と関わろうとする児童の育成
 ー総合的な学習の時間において、児童が相手の視点をもって課題の設定や情報の整理・分析を行うための指導の工夫を通してー」

(1) 検証授業の様子

単元の指導計画のモデルと指導者用チェックリストを基に検証授業を行ったところ、次のような児童の様子が見られた。(表1)

表1 単元の指導計画のモデルを基に、特に重点を置いた場面における主な指導の工夫と児童の様子

次	時	○学習活動	「重点を置いた場面」 ・主な指導の工夫	◆児童の様子
一	1	○「地域ニコニコ大作戦！」の意義を理解し、学習への意欲を高める。	「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面」 ・地域の高齢者と関わることのよさを伝えて、相手や目的を明確にした。 ・児童が学習計画に関して出した意見について、理由や根拠を問い返し、価値付けた。	◆児童は、「高齢者がやりたいことを聞きたい。」や「体験して、高齢者の方々ができることを知りたい。」など、相手意識や目的意識をもって課題を立てることができた。 ◆児童一人一人が意見を出し合って、交流会に向けて主体的に学習計画を立てることができた。 ◆児童が学習計画を立てるときに、「高齢者の方々が嬉しいと思うことを知るため」、「話を直接聞いて、高齢者の方々の思っていることを知る必要がある。」と高齢者の視点をもって決めることができた。
	2	○福祉施設の高齢者との交流会に向けた学習活動を考えながら、具体的な学習計画を立てる。		
二	6	○体験活動やインタビューで得た情報を基に、「高齢者と交流する上で大切なこと」を考える。	「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面」 ・児童が「高齢者と交流する上で大切なこと」に関して出した意見について、理由や根拠を問い返し、価値付けた。	◆学習の相手や目的と体験活動やインタビューで収集した情報を関連付け、相手意識や目的意識を高める姿が見られた。 ◆「高齢者の方々の思いを考えながら、交流することが大切。」や「自分たちも高齢者の方々と一緒に活動して、みんなでニコニコになると、高齢者の方々が嬉しいはず。」など、高齢者の視点をもって、「交流する上で大切なこと」を考えることができた。
	7	○「高齢者と交流する上で大切なこと」を踏まえ、福祉施設の高齢者との交流会の活動内容を考える。	「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面」 ・児童が考えた「高齢者と交流する上で大切なこと」を掲示するとともに、意識するよう児童に助言し、相手や目的を再確認した。	◆「交流する上で大切なこと」を自ら確認しながら相手意識や目的意識を更に高め、交流会に向けて高齢者の思いを考えながら、児童一人一人が意見を出すことができた。 ◆第一次で学習したことを生かし、「高齢者の方々が運動を頑張っているから、できる運動を考えて一緒に取り組みたい。」「手遊び歌では取り組みやすいように、ゆっくり歌おう。」など、交流会の活動内容を決めたり、活動を工夫したりすることができた。
	12	○「がんばったね会」で、交流会について振り返る。	「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面」 ・児童が学習において頑張ったことを、高齢者の視点から問い返し、価値付けた。	◆交流会について、「高齢者の方々が笑顔で一緒にできたから、手遊び歌を簡単に、ゆっくりやってよかった。」「説明で高齢者の方々に伝わっていない様子があったから、もう一度説明したら分かってもらった。」など、高齢者の様子から相手の思いを想像し、活動の成果を確かめることができた。 ◆今後の実生活において、「高齢者の方々がとても喜んでいる様子だったから、『交流する上で大切なこと』を意識して関わる。」や「地域のいろいろな人と関わって生活したい。」など、地域の身近な人と関わろうとする意欲が高まった。

(2) 質問紙調査の結果からの比較・考察

単元開始前と終了後の児童への質問紙調査(図4)より、次の三点のことが明らかになった。

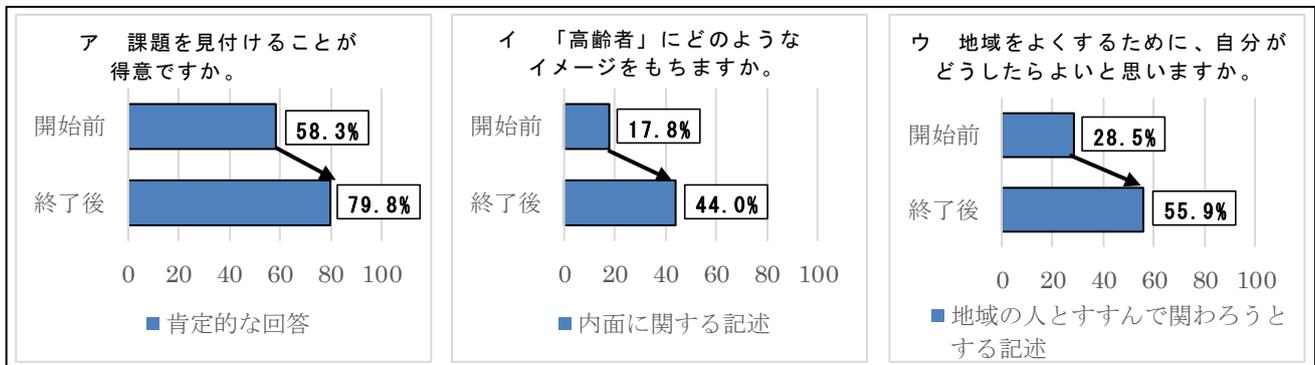


図4 単元開始前と単元終了後の児童の質問紙調査 (N=84)

ア 主体的に探究することについて

課題を見付けることについて、「得意」、「どちらかといえば得意」と肯定的に回答した児童の割合が21.5ポイント上昇した。この理由として、単元の指導計画のモデルに取り入れた指導の工夫により、児童が自ら課題を立てること、また学習したことを活動の目的に照らして整理・分析し評価することで、新たな課題を立てることができたからではないかと分析した。

このことから、児童は主体的に探究することにつながったと考える。

イ 相手の思いを考えながら探究することについて

高齢者に対して、「優しい。」、「生活を楽しんでいる。」、「(リハビリを) 頑張る気持ちが強い。」など、高齢者の内面に関する記述をした児童の割合が 26.2 ポイント上昇した。児童は体験活動やインタビュー、高齢者との交流会などの学習を通して、相手の思いを考えながら探究するようになったと捉えられる。

ウ 地域の身近な人と関わろうとすることについて

「地域をよりよくするためには、自分がどうしたらよいと思いますか。」について、「地域の高齢者ともっと交流する。」、「地域の人と関わって、思いを知るようにしたい。」など、地域の人とすすんで関わろうとする記述をした児童の割合が 27.4 ポイント上昇した。単元を通して、地域の身近な人と関わろうとする意識が高まったと考える。

(3) 観察対象児の学習状況

質問紙調査や担任への聞き取りを基に、3名の児童を抽出し、学習の様子を分析した。(表2)

表2 観察対象児への主な指導の工夫と様子

児童	身に付けさせたい力	・個別の支援		◆観察対象児の学習の様子
		児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面	活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面	
A	自ら課題を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動ごとに単元の相手や目的を確認した。 課題を立てるときにヒントカードを用意した。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を選んだ理由や解決に向けた活動について問い返し、一緒に振り返る機会を設けた。 課題を立てることができるようになったことを価値付け、学級全体に共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆交流会で取り組む活動について、自ら工夫を考え出し、積極的に仲間に伝えた。 ◆学習したことを高齢者の視点で振り返り、実生活に向けて自ら課題を立てることができた。
B	相手の思いを考えながら探究する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動ごとに単元の相手や目的を確認した。 複数の体験活動を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動について高齢者の思いについて問い返し、一緒に振り返る機会を設けた。 相手意識を高め、高齢者の視点で考えたことを価値付け、学級全体で共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者の思いを考えながら交流の活動の工夫を提案する姿が見られた。 ◆実生活において高齢者や地域の人の思いを考えて行動しようとする発言が認められた。
C	地域の身近な人と関わろうとする意欲や地域への愛着を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動ごとに単元を学習する意義や地域の人の思いを確認した。 体験活動後に地域の高齢者へのインタビューを取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューについて、高齢者の様子や自分の思いについて問い返し、一緒に振り返る機会を設けた。 高齢者と関わろうとする意欲をもてたことを価値付け、学級全体で共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者と関わるために自分が取り組みたい役割を選び、活動の工夫を考えた。 ◆単元のまとめの段階には、地域の身近な人と関わろうとする意欲や地域への愛着が高まった発言が認められた。

観察対象児の学習の様子より、A児、B児、C児ともに、身に付けさせたい力を高めることができたと考える。この理由として、指導者が単元の指導計画のモデルと指導者用チェックリストを基に個別の支援を取り入れたことで、それぞれの観察対象児が相手の思いを考えながら主体的に探究することができたのではないかと捉えられる。

第4 研究の成果

総合的な学習の時間における地域を題材とした学習を通して、相手の視点をもって「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面」と「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面」の指導を工夫したことにより、児童が相手の思いを考えながら主体的に探究することができるようになり、地域の身近な人と関わろうとする意欲が高まった。

第5 今後の課題

- (1) 本研究を踏まえ、総合的な学習の時間における他の単元の指導計画のモデルを作成するとともに、指導者用チェックリストの汎用性を検証する。
- (2) 「児童一人一人が自ら課題を立て、計画を立案する場面」と「活動の目的に照らして情報を整理・分析し、評価する場面」において、学年の発達段階に応じた指導の工夫を整理する。